

2017年(平成29年)

2月2日

木曜日

朝日新聞

本日の編集長=山之上玲子
3-3545-0131 www.asahi.com

船橋市地方卸売市場内 地域情報誌が開設

船橋市地方卸売市場に昨年12月、「市場カフェ」がオープンした。市場の中に事務所を構える地域情報誌「MyFuna」(まいふな)の編集部が、市場で出た廃材を活用するなどして開設。軽食やコーヒーを提供することとまらず、市場をはじめとする地域の情報発信や交流の拠点として活用していくという。

人が行き交う市場カフェ



「市場カフェ」ではマスターを務めるMy Funaの山崎編集長=船橋市市場1丁目

ワークショップも開催、交流拠点に

カフェがあるのは、市場内の飲食店などが並ぶ「関連事業者店舗棟」で、市場の正門に一番近いところ。まいふな編集長でカフェのマスターも兼ねる山崎健太郎さん(40)は当初、2階を編集部の事務スペースにして、1階を打ち合わせ用のスペースにするつもりだった。ところが、周囲から「一番いい場所だから市場の案内所に」「飲み物ぐらいい出して」などと言われ、1階は案内所兼カフェとして運営することにした。

昨年10月ごろから準備を開始。内外装は、山崎さん自らが手がけた。市場で使わなくなった木箱に焼き色をつけて使ったり、スノコで棚を作ったり、古いカメラや時計を置いたりして、やぼったさやレトロっぽさの中にも、どこか力強さがある「ダサかつこい」雰囲気を目指したという。

コーヒーは本格的なハンドドリップで、町おこしの活動や取材を通じて交流があったコーヒー店に教えてもらった。だが、「カフェで利益をあげるのではなく、人と人が出会う『場』を運営していきたい」と山崎さん。2008年12月の創刊から積み重ねてきた地域情報誌としての経験や人脈を生かし、交流会やワークショップなどを定期的に開いていくという。

営業は午前7時午後2時(水・日・祝は休み)。山崎さんは取材などで店を離れることもあるが、開店から約2時間は必ずいるようにしている。「市場は誰でも利用できる場所だけど、一般の人には入りにくいイメージがある。カフェがあることで来る理由ができ、市場全体の集客につながってほしい」

ワークショップなどの日程は、カフェのホームページ(<https://ichibacarc.com/>)やフェイスブックなどで告知している。問い合わせは「市場カフェ」(047・409・1877)へ。

伊勢剛